

■田老地区の復興パターン案について

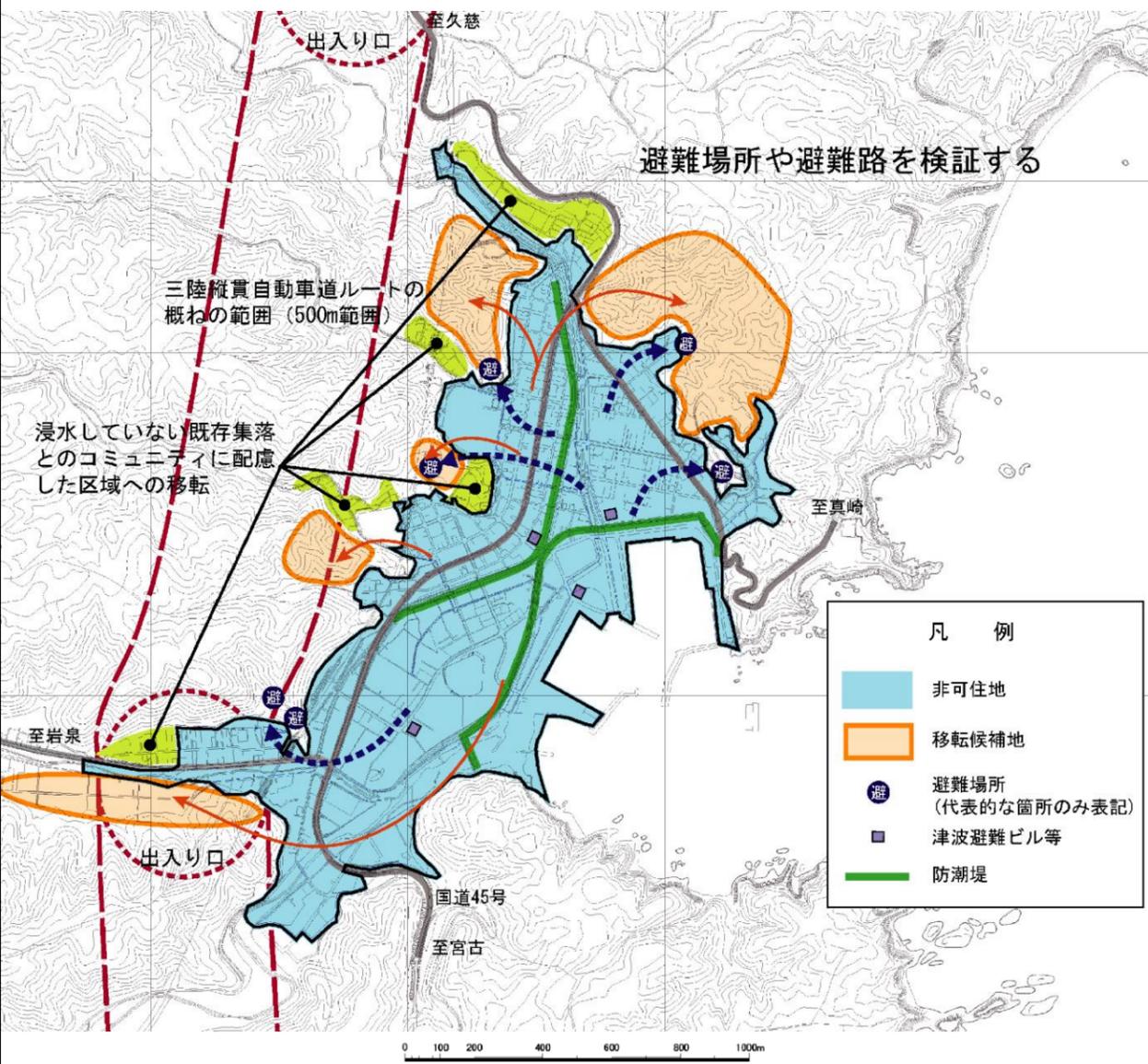
被害の状況

- 海側防潮堤が破壊され、山側防潮堤も越流し、地区一面に津波が押し寄せた。
- 浸水面積は121.2haにわたり、浸水高はTP+7.1~14.7mとなり、最大浸水深が13.9m（野中地区）に達した。
- 浸水区域内の建物の83.8%が流失または撤去となる被害を受け、避難所である田老第一中学校も浸水した。

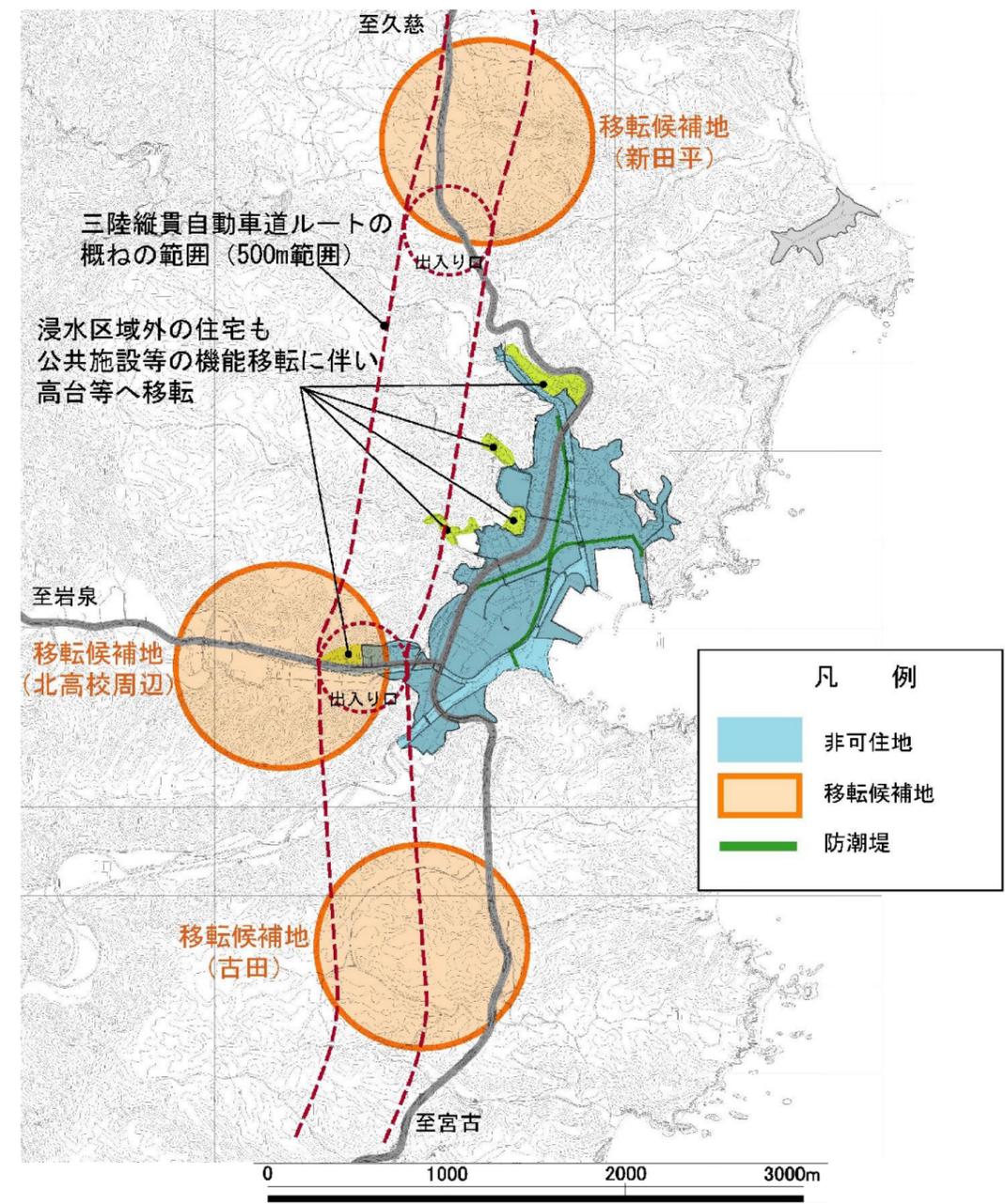
復興まちづくりの考え方

- 従前のコミュニティに配慮しながら、災害に強いまちづくりを行う。
- 住む場所は津波被害を受けない安全な場所に確保する。
- 三陸縦貫自動車道のインターチェンジの整備を活かした地域の魅力づくりを進める。

イメージ図 案A-1：浸水区域は非可住地とし住宅地を背後の高台へ移転



案A-2：浸水区域は非可住地とし住居・町機能のすべてを集団で移転
(候補としては下図の3箇所)



復興パターン案

特徴

- 住み慣れた地域で生活できる。
- 住宅地が分散する。

- 津波とは無縁の場所に住むことができる。
- コミュニティを維持できる。
- 住み慣れた場所から離れなければならない。

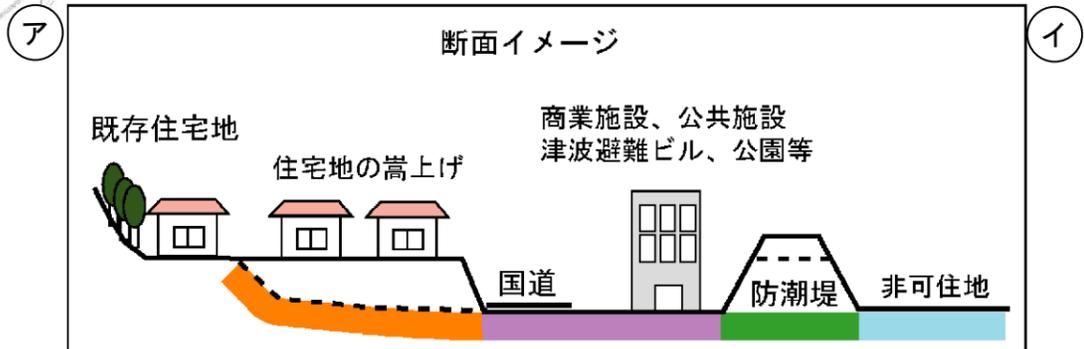
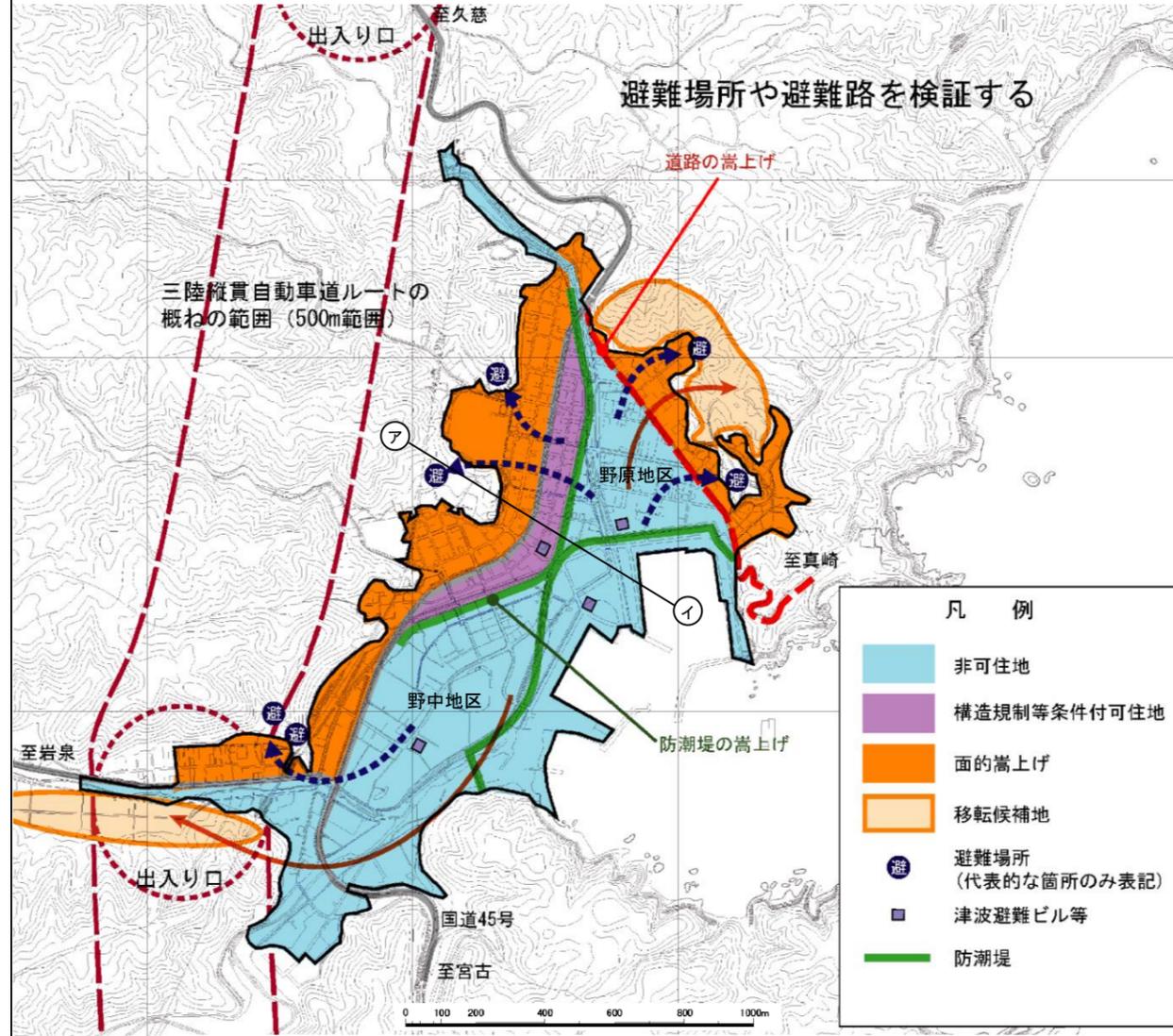
復興まちづくりの考え方

- ・ 従前のコミュニティに配慮しながら、災害に強いまちづくりを行う。
- ・ 住む場所は津波被害を受けない安全な場所に確保する。
- ・ 三陸縦貫自動車道のインターチェンジの整備を活かした地域の魅力づくりを進める。

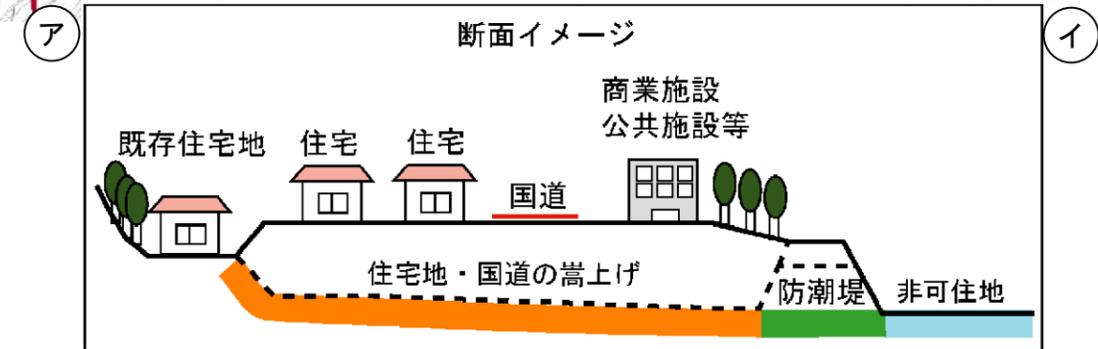
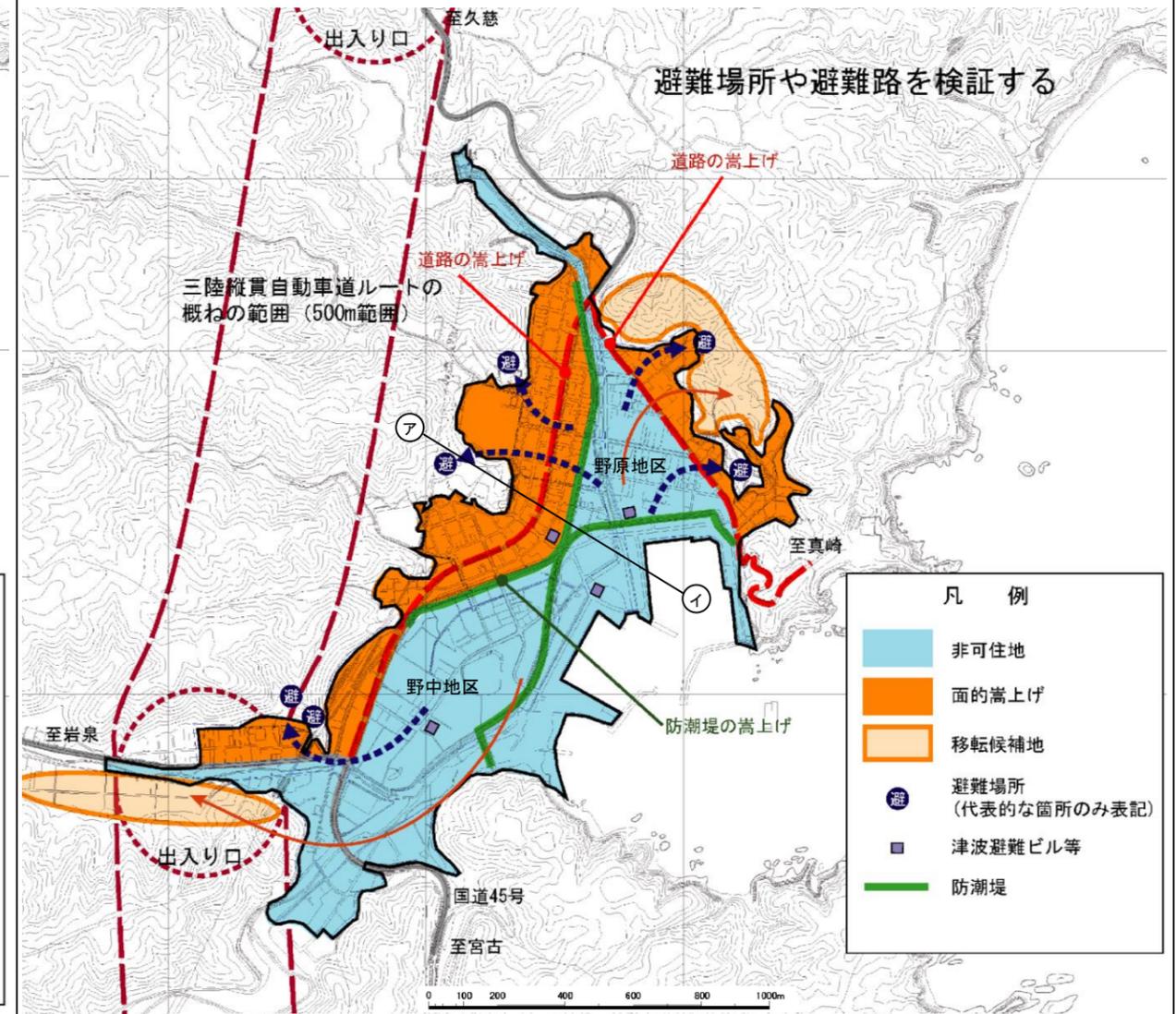
復興パターン案

イメージ図

案B-1：野原地区、野中地区は非可住地とし背後の高台へ移転
田老市街地の一部を嵩上げ



案B-2：野原地区、野中地区は非可住地とし背後の高台へ移転
田老市街地の全面を嵩上げ



特徴

- ・ 田老市街地の一部に現地再建ができる。
- ・ 嵩上げた地盤の安定に時間を要するため再建に時間がかかる。

- ・ 田老市街地に現地再建できる面積を広くとれる。
- ・ 地盤の嵩上げ高がとても大きいため、再建により時間がかかる。